合併目指し合同研修
職員住民自治学ぶ

来年1月1日合併を控える、大町市、八坂村、美麻村の職員は18日、関西学院大学小西砂千夫教授を招いた合同研修会を大町市役所で開き、新市発足に向け取り組むべきことを学んだ。小西氏は市組織の確立と住民自治の重要性を強調した。（中略）八坂、美麻地域に置かれる予定の自治組織は合併のための仕組みではないとし、草の根の住民自治をモデルにしてほしいと願いを込めた。（中略）

職員の意識については、より良い合併にするために、新市全体を考えた姿勢が必要とし、地域バランスを考慮した「攻めの行政」を目指すべきとした。

（2005.4.19）

合併控えテレビ番組制作
美麻村「まちづくりチャンネル」

大町市と八坂村との合併を前に、美麻村の村営ケーブルテレビは、合併後の地域づくりについての情報提供をする番組「まちづくりチャンネル」を制作している。定期的な番組を放映し、美麻地域の地域自治組織づくりに向けて、住民の関心を高める。

合併控えテレビ番組制作
美麻村「まちづくりチャンネル」

初回の番組で放映する予定の対談は、このほど、村情報センターで収録した。

関西学院大学の小西砂千夫教授と北沢伊紘男村長、合併後の地域自治を考えている住民有志のグループ「地域づくりミーティング」の前川浩一さん（43）＝大塩＝の3人が合併後の良い地域づくりのために何が必要なのか対談した。

（2005.4.22）

新市向け地域自治組織
美麻に準備会八坂は素案検討

大町市との合併を来年1月に控えた八坂村と美麻村で、新市で設置され、住民主体の地域をつくる「地域自治組織」の設立準備が進んでいる。美麻村は14日、設立準備会（会長＝下條秀則区長会長）の初会合を基幹センターで開き、組織について議論が始まった。

美麻村の準備会は、各区長や村内の各種団体、公募委員1人の計18人で構成。12月末までに13回の会議を開いて検討する。村民運動会や姉妹都市メンドシーノとの交流、文化祭など事業別に検討する部門をつくり、議論を重ねていく方針。

国土交通省の派遣する地域振興アドバイザーとして、住民自治活動に精通する江戸川大学の鈴木輝隆教授と、自治基本条例を制定するなど先進地域とされる北海道ニセコ町の片山健也町民学習課長を招いた。合併後の地域づくりに向け、先進事例などを学ぶ。

同事業は地域の課題解決のために国交省が各分野の専門家を派遣するもので、今年度は全国22市町村に派遣される。同村では「合併後の地域づくりと地域時事組織」をテーマに申請し、年3回派遣される。

美麻村に地域振興アドバイザー

国土交通省の「地域振興アドバイザー派遣事業」で美麻村は11日、江戸川大学の鈴木輝隆教授と、自治基本条例を制定するなど先進地域とされる北海道ニセコ町の片山健也町民学習課長を招いた。合併後の地域づくりに向け、先進事例などを学ぶ。

（2005.6.17）

合併後の地域自治学ぶ
美麻村に地域アドバイザー

同事業は地域の課題解決のために国交省が各分野の専門家を派遣するもので、今年度は全国22市町村に派遣される。同村では「合併後の地域づくりと地域時事組織」をテーマに申請し、年3回派遣される。

鈴木教授は、全国の地域づくりや住民自治活動に精通し、各地の地域づくりに取り組んでいる住民自治研究の第一人者とされ、昨年、同村で講演した。ニセコ町は全国に先駆け、「自治基本条例」を制定するなど、情報共有や住民自治の先進地として全国から注目されている。

2人は村内の集落や市民農園、重要文化財中村家など各地を視察。村の抱える課題や現状を把握した。

片山課長は、「典型的な『日本の農村』で、何とか守りたい。そのためには、住民自治をどうするかが大切。可能性のある地域」と話した。鈴木教授は「どのくらい未来のイメージを持てるかが重要。国際交流など地域の魅力を備えている」と話した。

県知事が合併決定

田中康夫県知事は12日、大町市や安曇野市など10市町村の合併を決定した。11日の定例県会での議決を得て決めた。

（2005.7.13）

専門家に地域自治学ぶ

美麻村の地域自治組織設立準備会（会長＝下條秀則区長会長）は、11日、3度目の会合を開き、地域アドバイザーとして国交省から派遣された江戸川大学の鈴木教授と北海道ニセコ町の片山健也町民学習課長と懇談した。（中略）

「みなさんが取り組んできたことは知的財産。合併後は

行政は1地域のことを考えてくれず、自分で守っていくしかない。住民自ら、地域をつくる『企画力』をもたなければ」と話した。下條会長は懇談を終え「住民の『誰かやってくれる』という考えを変える必要があると感じた。住民自らが取り組んでいく組織を目指したい」と話した。

（2005.7.14）

小都市の自立と農村の創造

大町市、八坂村、美麻村合併協議会は28日、講演会をぽかぽかランド美遊で開いた。地方自治に詳しい江戸川大学社会学部の鈴木輝隆教授が合併後の魅力ある地域づくりについて話した。

3市村で支え合う地域づくりが必要。コミュニケーションを大切に」、と行政だけでない住民の合併を提唱した。

地域自治組織を模索

美麻村 助言受けて案検討

美麻村の地域自治組織設立準備会（会長＝下條秀司区会長）は26日、9度目の会合を開き、住民の手で地域づくりを担う「地域づくり会議」の方向性について、既存の自治会を基本として強化する形態をとるか、特色ある事業に積極的に取り組む組織を中心とした形態をとるか、両論の主張があった。

自治会を基本とする場合、住民を網羅できる利点を持つが、発展が期待しにくい。新たな組織はメンドーノ交流や山村留学などの事業を担い、地域の活力を引き出す期待が持てるが、一部住民が参加しにくい恐れがある―などの意見が出た。

同準備会は毎週開いている。委員からは「煮詰まっている」「堂々巡り」などの意見も出たが、ニセコ町の片山課長は「議論を積み重ねていく中から想像と現実の間で生まれてくる」と評価。鈴木教授は「議論は現実的な考えを想像力で補うもの。

現実も迫っておりタイムリーにやらなければ」と助言した。

助言する片山課長（左）と鈴木教授

地域自治組織を模索

美麻村 助言受けて案検討

美麻村の地域自治組織設立準備会（会長＝下條秀司区会長）は26日、9度目の会合を開き、住民の手で地域づくりを担う「地域づくり会議」の方向性について、既存の自治会を基本として強化する形態をとるか、特色ある事業に積極的に取り組む組織を中心とした形態をとるか、両論の主張があった。

自治会を基本とする場合、住民を網羅できる利点を持つが、発展が期待しにくい。新たな組織はメンドーノ交流や山村留学などの事業を担い、地域の活力を引き出す期待が持てるが、一部住民が参加しにくい恐れがあるーなどの意見が出た。

同準備会は毎週開いている。委員からは「煮詰まっている」「堂々巡り」などの意見も出たが、ニセコ町の片山課長は「議論を積み重ねていく中から想像と現実の間で生まれてくる」と評価。鈴木教授は「議論は現実的な考えを想像力で補うもの。

現実も迫っておりタイムリーにやらなければ」と助言した。

助言する片山課長（左）と鈴木教授

地域自治組織を模索

地域自治組織設立準備会は26日、9度目の会合を開き、合併後の住民自治組織について議論した。

自治組織の中で、住民の手で地域づくりを担う「地域づくり会議」の方向性について、既存の自治会を強化する形態をとるか、特色ある事業に積極的に取り組む組織を中心とした形態をとるか、両論の主張があった。

同準備会は毎週開いている。委員からは「煮詰まっている」「堂々巡り」などの意見も出たが、ニセコ町の片山課長は「議論を積み重ねていく中から想像と現実の間で生まれてくる」と評価。鈴木教授は「議論は現実的な考えを想像力で補うもの。

現実も迫っておりタイムリーにやらなければ」と助言した。

合併前村の歴史語る

美麻で文化財講座

大町市文化財センターはこのほど。文化財講座を開き、同市文化財審議員で元美麻村誌編纂委員・松沢一登氏が、来年1月1日に大町市に編入合併する「美麻村の文化財」について講義を行った。

松沢氏は、美麻村は明治のはじめに大塩村、千見村、二重村、高地村などが合併して誕生したことを、当時数年間だけ使われた珍しい地図を示しながら話したあと。同村の文化財を紹介。

（2005.11.16）

12月31日解散決定

大町・八坂・美麻合併協

第18回大町市・八坂村・美麻村合併協議会は21日、大町市役所で開き、合併前日の12月31日に解散することを決めた。（中略）

報告書では過疎計画について、旧両村の過疎計画を踏襲し合冊した案を示した。（中略）来年以降の主な事業予定について、ＣＡＴＶ網構築や仁科台中学校改築に合併特例債を用い、美麻支所庁舎建設などに過疎債を充てる方針を説明。地域自治組織支援や山村留学、メンドシーノ交流事業も継続することにした。

（2005.11.22）

新市の夢大空へ

合併記念事業に向けた凧配布

来年1月1日の「新大町市誕生」を前に大町市・八坂村・美麻村合併協議会はこのほど、3市村の全小学校、保育園、幼稚園の子どもたちに記念イベント用の凧（たこ）づくりセットを贈った。

合計約1300セットを配付。凧は児童や園児が絵を描き、1月1日の合併記念イベント内で開く凧あげ大会で空高くあげられる。

（2005.12.5）

合併へ門出 歴史しのぶ

美麻村閉村式 心新たに

美麻村は11日、閉村式を美麻小中学校体育館で開いた。参加した村民ら350人が村の130年の歴史を振り返り、新たな門出に向けて心新たにした。式典は美麻源流太鼓子ども会の演奏で幕を開けた。130年の歴史と四季の行事を紹介し、村民の村への感謝の声を収録したスライド上映に、来場者は目を潤ませた。子供たちが村旗を降納し、来場者全員で「ふるさと」を合唱し、村をしのんだ。

北沢伊紘男村長は「一抹の寂しさはあるが、美麻という地域の名は残る。新市でも美麻村民だった誇りを持って、新しいまちづくりに取り組みましょう」とあいさつ。

小学生代表の片岡美優子さんが「美麻のすばらしい時間はそのまま流れていくといいな。新市でも友だちをいっぱいつくりたい」、中学生代表の小山航太君は「思い出を受け継ぎ、何百年も心のふるさととして残したい」と発表した。

希望者を対象に、村民一人ひとりの功績や活躍をたたえる「みんなの表彰式」では、

合併へ門出 歴史しのぶ
美麻村閉村式 心新たに

来年1月1日に大町市、八坂村と合併する美麻村は11日、閉村式を美麻小中学校体育館で開いた。参加した村民ら350人が村の130年の歴史を振り返り、新たな門出に向けて心新たにした。式典は美麻源流太鼓子ども会の演奏で幕を開けた。130年の歴史と四季の行事を紹介し、村民の村への感謝の声を収録したスライド上映に、来場者は目

子どもたちの手で村旗を降納

代表として各区の区長と小・中学校代表者が「美麻が大好きで賞」などユニークな表彰を受けた。

（2005.12.13）

地域自治組織の設立準備着々

美麻村はこのほど、地域自治組織設立準備委員会の答申を元に庁内で検討を進め、素案をまとめた。村は18日の千見地区を皮切りに説明会を開き、地域づくり会議の参加者を募り、年内の発足を目指す。若者が地域事業に参加する場となる「世代会議（仮称）」の設置にもとりかかるとしている。

村は今後、各区の住民説明会やケーブルテレビで広報し、同地域づくり会議への参加を呼びかける。

（2005.12.18）

新市の防災に決意新た

八坂・美麻消防団が解団式

美麻、八坂両村の消防団は17、18日、それぞれ解団式を開き、新市で分団として臨む地域の守りに向け、決意を新たにした。

美麻村消防団（酒井孝芳団長）は村営施設ぽかぽかランド美遊で開き、団旗を酒井団長から北沢伊・男村長に降納した。

美麻村消防団は明治42年、前身の二重消防組が発足し、その後発足した千見、新行、大塩が昭和9年に加わり、原形が出来上がった。昭和30年には現在の形となった。

（2005.12.21）

村最後の高齢者学級

八坂村と美麻村の高齢者学級はこのほど、それぞれ主催の村公民館として最後の講座を開いた。美麻村の高齢者学級は恒例の美麻中1年生17人とのもちつきとしめ縄づくりを、同村青具の重要文化財・旧中村家住宅で開き、伝統行事を通して世代を超えて交流した。

（2005.12.24）

新市に決意2村は閉庁

1月1日の合併を前に、3市村庁舎で28日、新市辞令交付式が行われた。

八坂村と美麻村では閉庁式も行われ、長きにわたった村の事務を閉じた。仕事始めは1月4日に行い、両支所が開所し、新市の窓口としてスタートする。

（2005.12.29）

2006年

新「大町市」元旦に産声

大町市、八坂村、美麻村は1日合併し、「新大町市」として新たな地位気付くりに向けて第一歩を踏み出した。新市誕生を祝うイベントは31日、1日、各地で開かれ、市民が地域の発展を誓った。

（2006.1.3）

新「大町市」業務スタート

1日に大町市、八坂村、美麻村が合併して誕生した新「大町市」の市役所仕事始め式と八坂、美麻の両支所の開所式は4日開き、新市業務がスタートした。

大町市に新設の消防防災課

大町市が今年から新設した消防防災課は4日、地域の安全を目指して業務開始した。

（2006.1.5）

新旧3市村事務引き継ぎ

山留など継続要望添付

新大町市は4日、地方自治法に基づいた事務引き継ぎ式を大町市役所で開いた。旧村で執行中だった事業や今後の課題について、旧村の元村長や元教育長ら理事者が腰原愛正市長らに引き継いだ。

（中略）北沢伊紘男元美麻村長は姉妹都市メンドシーノとの国際交流の継続を要請した。

（2006.1.6）

地域づくり会議設立準備

大町市美麻2月中目指す

大町市美麻地区で、地域自治組織の一翼を担う実働機関、地域づくり会議設立に向けた合併後初の準備会（座長＝下條秀則・美麻地区連合自治会長）は10日、具体的な組織運営に向けて議論を詰めた。

（中略）地域づくり会議は、美麻地区の将来に何が必要か考え、各団体を横断する会議や講演会の開催や公民館・自治会活動などの支援を行う機関として活動する。地域情報を広報する「地域だより」や美麻地区のホームページ作成などの情報発信も行う。

（2006.1.12）

住民活動の支援目指す

地域づくり会議設立総会

美麻地域づくり会議（合津富吉会長）は12日、設立総会を美麻支所で開いた。住民の手による合併後の地域づくりの第一歩が始まった。

設立には約40の団体や個人が参加。広報、研修、事業の3つの専門部に会に分かれ、今後は建設予定の支所庁舎の内容など、住民意見の集約などの役割も担う。

（中略）合津会長は「やっと発足できたが、これからが本番。合併したばかりの地域がどこに向かうのか、方向付けをしていきたい」と話した。

（中略）選出された役員の皆さん（敬称略）

△会長＝合津富吉、△副会長＝佐藤修一、△監事＝高橋功、左右田平嘉

◇専門部会長△広報部会＝前川浩一、△研修部会＝因幡廣一、△事業部会＝伊藤賢市

（2006.5.14）

地域づくり会議の設立総会

新市初メンドシーノ訪問

交流継続調印へ出発

旧美麻村（大町市美麻）と姉妹都市を結んでいた米国カリフォルニア州メンドシーノの大町市からの訪問団（団長＝腰原愛正市長）は19日、米国に向けて出発した。合併後初の訪問で、腰原市長らは今後の国際交流の継続を調印する。（中略）

記念式典は現地時間の21日開き、合併後の交流継続を調印する。

（2006.5.20）

メンドシーノと交流継続

大町市からの訪問団は、日本時間の22日、現地の中学校で行われた記念式典で、合併後の姉妹都市交流の継続を調印した。

訪問団によると、大町市の腰原愛正市長と飯島楯雄議長、メンドシーノのデビット・カルファックス・郡スーパーバイザー、姉妹都市交流会代表者のジューン・ミラー、キャロリン・ラトキン両氏が調印書にサインし、握手で今後の交流継続を誓った。

（2006.5.23）

美麻地域づくり委員発足

新市自治の受け皿に

合併後の旧村地域の意見を市政に反映させる地域自治組織、大町市美麻地区の地域づくり委員会は2日、初回の会合を美麻支所で開き、腰原愛正市長が委員に委嘱状を手渡した。

地域づくり委は、合併後の旧村単位に設置され、合併特例法の地域新議会機能を含む組織。市からの諮問事項の審議や、住民自治の実働部隊である地域づくり会議からの意見を同委で調整するなど地域の意見を集約し、住民と行政の協働による地域づくりを進める。

（2006.6.3）

地域情報協働で発信

広報誌やHPの作成

美麻地域づくり会議の広報部会はこのほど、情報誌「地域づくり通信（仮題）」を創刊した。合併で休刊した旧村広報に代わって、地域の情報を住民に伝える役割を担う。

（中略）前川部会長は「市の広報では載せきれない地域限定の情報を紹介し、（中略）大勢の人に関心をもってもらい。一緒に作っていければ」と話した。（2006.7.19）

美麻で土石流 住民孤立

片岡で梅雨災害

活発な梅雨前線による大雨の影響で20日未明、大町市美麻片岡地区の小滝沢で幅30㍍長さ100㍍にわたる土石流が発生。土砂約1万立方㍍が流出して市道万中片岡線をふさいだため、一時的に同地区の5世帯17人が孤立状態となった。けが人などはなかった。

小林嘉登さん（71）は「昨夜9時ごろにゴロゴロと石がころがる大きな音が聞こえた」と話した。さらに、住民らによると、深夜や未明に「ゴー」という音がして、午前3時ごろ大きめの音が聞こえたという。

美麻で土石流 住民孤立
大町市 片岡で梅雨災害
美麻片岡で発生した土石流

（2006.7.21）

踊りの熱気街包む

新市一体練り歩く

大町やまびこまつり

大町市の中央通りで5日に開いたやまびこ祭りで、クライマックスのやまびこ踊りには64組のおどり連が輪をつくり、3000人を超える参加者が街を練り歩いた。（中略）サンバは新市発足を記念し、合併した八坂や美麻地区の音頭が編曲されて組み込まれ、両地区から参加した連も聞きなれた旋律に合わせて踊っていた。

（2006.8.7）

八坂美麻住民力作一堂に

各地で文化祭催し多彩

元気な子どもの絵が並ぶ会場＝美麻

美麻地区の文化祭では、会場となった美麻トレーニングセンターに12団体から焼き物や生け花、絵画や編み物など住民の力作が並んだ。

（中略）29日の美麻地区文化祭は、午前9時から基幹センターで太鼓や琴などの芸能発表会、午後2時からブーメランをつくる体験教室を予定している。一般公開やフリーマーケットは午後3時まで。トン汁やもちの振る舞いもある。

（2006.10.29）

新美麻支所基本構想示す

大町市は22日、新設方針の支所機能を含む美麻コミュニティ・センター整備について、基本構想の案を示した。旧美麻村での検討を引き継いだ当初の素案に比べ、講堂の収容人数などで縮小した。今後、計画を具体化したいとしている。（2006.8.23）

新旧校歌響かせ発展誓う

美麻小中学校30周年

大町市美麻小中学校（原達郎校長・140人）の開校三〇周年記念式典は26日、同校体育館で開き、約250人が出席してこれまでの歩みを振り返るとともに今後の一層の発展を誓い合った。

美麻北中卒業生で初代PTA会長の高橋功さん（青具）が、統合前の学校や村の生活の様子などについて、元美麻村長の吉沢義夫さん（二重）が、学校建設やメンドシーノとの交流について、それぞれ講演。北小中学校や南小中学校の旧校歌を出席者全員で元気いっぱい歌った。

（2006.11.28）

新旧校歌響かせ発展誓う
美麻小中学校30周年

今日から基本設計案説明

大町市美麻で建設が計画されている支所機能を備えた公民館施設について、市は9日から美麻地区5か所で住民説明会を開く。市や設計者、地域づくり会議や委員会、住民らとの話し合いで進めてきた基本設計案を示す。

（中略）同センター建設は平成12年ごろから始まり、老朽化した旧役場や公民館本館が旧村内に無かったことから、建設要望の声があがっていた。現支所は施設完成後に解体撤去される。（2006.12.9）